

三年学年だより

No. 5

10月号

令和2年 10月 1日発行

304HR 担任・副担任

「人生100年時代」の中の「今（10代後半）」

高校3年生＝受験生も後半突入。総合型選抜入試や学校推薦型入試の出願準備の真ただ中の人、一般入試の2次対策にも力が入りつつある人、それぞれの人生の足音が聞こえてくる。受験がこの先の長い人生の基盤として重要であることは言うまでもなく、目標に向かって今は「只管（ひたすら）」頑張っしてほしい。ただ、今の目標が達成されたとしても、また、たとえ敗れたとしても、それが全てではないということも確認はしておいてほしい。大学を中退して成功している人もたくさんいる（タモリ、秋元康、萩本欽一…。※中退を推奨しているわけではありません）。進路が内定している人も、次へのステップに向けた目標を持ち、歩みを止めないようにしよう（自分は大学合格後、入学までの間、中国語の勉強（独習）に明け暮れたおかげで、大学入学後、検定試験に早く合格し、旅先の会話でもほぼ困らなくなった。）。ともあれ、1学年から担任をさせていただき、大多数での関東班の修学旅行など、思い出深い学年全員のよりよい進路実現と幸福を願ってやまない。

さて、思いっくままに書く。一つのことを注力して、エキスパートになっている人はとてつもなく魅力的である。しかし、一つの専門だけで生涯を貫ける人は稀である。プロスポーツ選手にも引退があるし、働き出して仕事にのめりこんだとしても退職がある。これまで一つの事を中心にしてきた人は、それが失われた瞬間、今までの生きがいやそれに伴う人脈を一時に喪失してしまう可能性がある。また、人生のステージは仕事だけではない。結婚、出産、育児、それぞれの場面で人との関わりがある。一つの事にのめりこむだけだと、他分野の理解ができず、世界が狭まってしまう。そこで、大切だと言えるのは、少しでも関心を抱いたもの（反社会的なこと以外）には、若いうちに躊躇なく少し首を突っ込んでおくことだ。知っておけば、後から深めるためのきっかけになる。関心を持っていることで、多くの話題についていける。多くの話題があればそれだけ多くの人とつながれる。きっかけが早ければ、それだけ早く人と関われる。それは仕事以外の人とのつながりを持つための条件でもある。私は大学入学後、できるだけ憧れの京都を隅々まで巡り、アルバイトをしてできるだけ憧れの中国の街歩きをし、できるだけ単位も取るようにした。一人暮らしの必然性もあったが、たまには難しい料理にも挑戦した。様々な本も読んだし、習い事もした。甲子園で阪神を応援もした。特に19歳で飛び込むようなつもりで敢行した約2カ月間の中国への短期留学と一人旅は、得体の知れない自信を身に付けさせた。一つを極めるわけではないが、自分なりにがむしゃらに様々なことを吸収しようとしていた。そうした経験が今の自分を形成し、人前で話す内容や趣味を深めるための素材となり、人とつながる力として活きている。

ALT のステファニー先生によれば、カナダやアメリカには「孤独死」なるものはほぼないとのこと。人生100年時代ともいわれる今、人とつながれる力は自己の健康を保つ上でも不可欠なものとなりつつある。若いうちに様々なことに関心を持ち、挑戦していこう。経験としての読書もたくさんしてほしい。（304担任）



十数年前から『日経新聞』を読むことが楽しくて仕方がない。週末には気になった記事を再読し、スクラップしている。世の中の動きが本当によくわかる。一年ほど前まではAIの文字を見ない日はなかった。今でもよく出てくるワードだが、最近はDX（デジタルトランスフォーメーション）というワードがよく出てくるようになった。デジタル庁も創設される。私が一番危惧していた、中央銀行が発行するデジタル通貨（仮想通貨ではない）も世界で初めて4月からカンボジアで取り扱いが始まった。日本のソラミツという会社が技術提供している。社長は楽天エディを創った人でもある。近日中に中国の人民元のデジタル通貨も発行されるようだ。ほとんど完成している。決済が便利になることは間違いないがブロックチェーンの技術が破られることを想像すると空恐ろしくなる。量子コンピューターが進歩すると簡単に破ることができる。アメリカと中国が圧倒的に量子コンピューターの論文数が多い。デジタル通貨を使って、基軸通貨のドル決済から人民元での決済を増やそうとしていると思う。今後、アメリカと中国が各所で覇権をめぐって争いに発展することは間違いないであろう。そんな時代の中にいることを私たちは忘れてはならない。（304 副担任）